



京都大学  
KYOTO UNIVERSITY

2020年度京都大学再生可能エネルギー経済学講座  
シンポジウム 第1部  
『入門地域付加価値創造分析』に関するシンポジウム  
冒頭ご挨拶

2020年12月14日(月), 9:00-17:00

オンライン開催

再エネ講座代表 諸富 徹

京都大学大学院地球環境学堂／経済学研究科



京都大学大学院 経済学研究科  
Graduate School of Economics, Kyoto University

再生可能エネルギー経済学講座  
Renewable Energy Economics Course



Google カスタム検索

検索

講座メンバーと運営体制

▶ 代表からのご挨拶

▶ 講座の研究内容

### Information -更新情報-

【コラム】[「No.220 2050年カーボンニュートラル実現のための優先順位」](#)を掲載しました

(12月10日更新)

# 京大「再エネ講座」とは何か

- 第1期講座(2013～2018年度)、第2期講座(2019～2024年度)
- 本講座発足の原点としての東日本大震災
- 既存のエネルギー供給システムの課題を克服し、再生可能エネルギーを中心とする分散型電力システムのあり方を経済学の視点から分析、政策提言を行う
- 三つの研究部門
  - 【部門A】再エネの普及促進政策とともに、再エネ中心とする分散型電力システムのあり方を探求
  - 【部門B】脱炭素化や再エネ大量導入が、分散型電力システムの構築に繋がり、それが地域活性化につながる方途を探求
  - 【部門C】パリ協定を受けて今後、本格化する「脱炭素化」と「エネルギー転換」の経済影響、移行のための政策手段の探求

# 入門 地域付加価値創造分析

諸富徹編 日本評論社刊(2019年4月)

序章

第1章 地域付加価値創造分析の理論

第2章 地域付加価値創造分析

のケーススタディ

第3章 再エネの地域付加価値創造分析を  
自治体レベルで活用する

第4章 エネルギーまちづくりのガバナンス

第5章 再エネ条例施行後における

エネルギー自治の展開

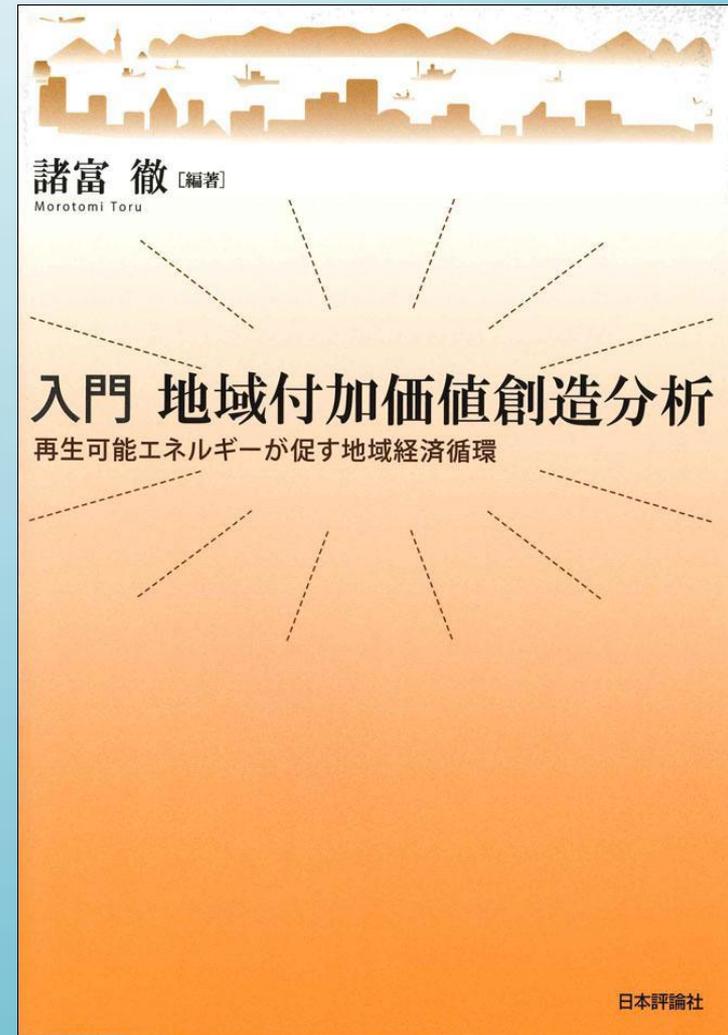
第6章 スノーリゾート地域の再生に向けた

小水力発電の可能性

第7章 再生可能エネルギーと地域金融

第8章 日本山村における地域電化と地域社会、  
住民の対応—1909～1968—

第9章 地域分散型・地域主導型エネルギー  
システムとその担い手



開催時間	演題	登壇者（敬称略）
9 : 00-9 : 10	開会の挨拶とシンポジウム進行の注意点についてのご案内	
9 : 10-9 : 45	地域付加価値創造分析の理論	中山 琢夫 小川 祐貴
9 : 45-10 : 20	地域付加価値創造分析のケーススタディ	小川 祐貴
10 : 20-10 : 55	地熱発電における地域経済付加価値分析	山東晃大
10 : 55-11 : 30	自治体新電力の地域経済付加価値と今後の可能性	稲垣 憲治
11 : 30-12 : 05	再生可能エネルギーの地域付加価値分析ー長野県を対象としたケーススタディ	ラウパッハ＝スミヤ ヨーク 小川 祐貴
12 : 05-12 : 40	再エネの地域付加価値創造分析を自治体レベルで活用するー日本でのケーススタディからの示唆	ラウパッハ＝スミヤ ヨーク 小川 祐貴

50分休憩

13 : 30-14 : 05	エネルギーまちづくりのガバナンスーオレゴン州・ポートランド市における地域的実験の制度設計	佐無田 光
14 : 05-14 : 40	再エネ条例施行後におけるエネルギー自治の展開ー長野県飯田市を事例として	八木 信一 荻野 亮吾
14 : 40-15 : 15	スノーリゾート地域の再生に向けた小水力発電の可能性 ー長野県白馬村を事例にー	太田 隆之
15 : 15-15 : 50	再生可能エネルギーと地域金融～小水力発電の実践を通じて得られる示唆～	井上 博成
15 : 50-16 : 25	日本山村における地域電化と地域社会、住民の対応ー1909～1968ー	西野 寿章
16 : 25-17 : 00	地域分散型・地域主導型エネルギーシステムとその担い手ー社会的企業 (social enterprise) 論からの考察 ー	宮永 健太郎